

## 実践団体情報

記入日	2020年1月17日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	立正大学地球環境科学部 教育工学・学習科学研究室
代表者名	土屋 衛治郎
プラン全体のタイトル	水害メカニズムの要素になりきる-演劇&防災 WS-
電話番号	080-3730-4591
メールアドレス	etsuchiya@ris.ac.jp
実践団体の説明	当研究室は学習者中心の教育・学習方法と環境について研究しています。地域連携活動も行う中で、防災教育を実施する側も受ける側も双方学び合い、継続的に学習を続けることができる体制や環境とはどのようなものか探究しています。
所属メンバー	立正大学地球環境科学部特任講師:土屋衛治郎を主に、演者、協力者、アドバイザーなど様々な方に協力頂いています。
活動地域	埼玉県熊谷市
活動開始時期・結成時期	2016年4月
過去の活動履歴・受賞歴	2017年以降、見てみようよ！常総市の会への参加や連携活動

プラン全体の概要	<p>大学生及び小学生が水害プロセスをその構成要素（水、堤防など）になりきるロールプレイ手法をとり、演劇表現（紙芝居含む）することで体感的に理解しつつ、観覧者にわかりやすく伝える。</p> <p>演者側には水害プロセスの体感的理解を促し、観覧者側にも、楽しく、観ていても実感的理解を伴う防災教育を実施する。</p>
----------	---

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	埼玉県熊谷市における自然災害の歴史や資料の調査、防災科研、近隣の防災学習センターなどへの見学。	演者等の協力者募集	
5月			
6月			協力者との勉強会
7月			地域でのニーズ調査
8月	演劇内容を外水氾濫に絞り込み	台本作成開始	
9月		台本完成	協力者に演劇プロトタイプの実施。フィードバック受け。
10月	演劇に紙芝居を取り入れるよう変更		
11月		台本修正	
12月		演劇準備	
1月		演劇準備	
2月			演劇実施予定
3月			演劇実施予定。web 公開。

プラン全体の反省点・課題・感想	実施時期が大幅に遅れてしまった。演者の募集に時間が大きくかかってしまった。今後同様の試みをする際には、募集範囲を広げることや、あらかじめ演劇組織などつながりを構築してから事業開始できるようにしたい。
今後の活動予定	今後も 2019 年度内は演劇実施を継続していく予定である。今後は演劇内容を改良していくとともに、演劇実施者と演劇観覧者双方に水害メカニズムについてどのような学習内容が発生したか検討していきたい。

## 実践したプランの内容と成果

記入日	2020年1月20日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	立正大学地球環境科学部 教育工学・学習科学研究室
実践番号	1
タイトル	水害メカニズムの要素になりきる-演劇&防災 WS-
実践担当者のお名前	土屋 衛治郎

実践にかかった金額	5万円未満
実践の準備にかかった時間	数ヶ月
実践活動を実施した日時	2019年4月1日9時～2020年1月17日17時
実践の所要時間	90時間
実践の運営側で動いた人の人数	1人
防災教育の対象者の属性	小学生（低学年）・小学生（高学年）・大学生・地域住民・社会人/一般・女性
防災教育の対象者の人数	約100人
実践を行った都道府県と市区町村	埼玉県熊谷市
実践を行った具体的な場所	立正大学熊谷キャンパス
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	水害を専門とする大学教員、演劇など防災教育プログラムに詳しい防災学習の専門家

達成目標	水害に関して、そのメカニズムなど基盤的理解をもとにした防災が必要となっている。水害の構成要素（水、堤防、家屋など）に人がなりきり演劇し、楽しく、体感的理解も促進する防災教育を実施する。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

<p>実践内容・方法</p>	<p>当初は外水氾濫における一連の流れとして、支流地域に降雨がある→増水する→下流域などに流れていくことにより水量がさらに増加→都市部などの河川の水量が増す→都市部の堤防を越水や堤防決壊が起こる→都市内部に家屋の浸水や交通網やインフラ設備への被害がでる、という全てを演劇表現しようとした。しかし、演劇セットと時間が長大となり、間延びし学習ポイントが明確にならないという問題を指摘された。そこで、一連の流れを基本的に紙芝居で伝え、支流などの増水、堤防の越水・決壊、都市部への水の流入というポイントをしぼり演劇することで、メリハリをつけ、特に重要なポイントは演劇で実施と、観やすいものにした。</p> <p>紙芝居の中に演劇を含めるという形にしたことで、全体を簡易化することにもつながり、準備や実施をしやすくもなった。</p>	
<p>得られた成果</p>	<p>水や堤防、家屋などに人がなりきり、演劇することは、それ自身が観覧者の興味を引くようで、演者が登場するたびに笑いが起こるなど、注意をひきつける効果があるようであった。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>少し</p>
<p>課題・苦労・工夫</p>	<p>実施時期が大幅に遅れてしまった。演者の募集に時間が大きくかかってしまった。今後同様の試みをする際には、募集範囲を広げることや、あらかじめ演劇組織などつながりを構築してから事業開始できるようにしたい。</p>	

<p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p>	
<p>関係者の名前・団体名</p>	<p>埼玉県防災学習センター</p>
<p>関係者の説明</p>	<p>埼玉県における自然災害や防災教育に詳しい施設</p>
<p>関係者の連絡先</p>	<p>TEL : 048-549-2313 mail : info@saitamabousai.jp</p>

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	こりから新規のプランを企画・実施しようとする方
伝えたい内容	簡単でもプロトタイプを作成し、関連しそうな人に相談してみると何かしら進展することが多くありました。不慣れで新規な企画でも、具体的内容を持って人に相談すると進むと実感しています。